

## ■明日から冬休み

12月24日(金)から1月13日(木)まで冬休みとなります。今年度の2学期も昨年度同様、台風等による影響もなく授業が順調に進んだのではないかと思います。特に成績が振るわなかった教科・科目については、この冬休み中に徹底的に復習して苦手克服に努めましょう。なお、後の記事にもありますが、3年生で大学受験を控えている諸君は、追い込み・まとめの時期です。残された時間を大切にしてください！！



では、1月14日(金)に元気に登校してくることを期待しています。

## ■3年生の進路決定状況

12月16日(木)現在の3年生の進路決定状況です。今年度は特進コースも学校推薦型の公募制での進学先決定者が多かったため、現時点でかなり決定しています。これから受験を控えている人は、それぞれ健闘を祈ります。就職未決定者については、1月以降ハローワークに登録して希望の仕事を見つけられるようにしてほしいと思います。

【12月16日現在】

	大学	短大	専門学校	就職	その他	合格・内定
決定者数	70名	3名	26名	19名	4名	122名
希望者数	83名	4名	29名	25名	4名	145名

## ■日本学生支援機構・奨学金の結果通知について

日本学生支援機構から12月20日(月)に結果通知が届き、該当生徒に配付しました。今回で希望者すべてに結果通知を配付できたかと存じます。保護者の方から1件、「学校で入力した内容について、訂正届を出したのに直っていなかった」という問合せがありました。そのような場合には、お手数ですが、日本学生支援機構に直接お問い合わせいただければと存じます(※学校としましては、お預かりした申請書類については、訂正届等も含めてすべて規定に則り日本学生支援機構に発送しています)。この結果通知に基づいて入学手続きの際に手続きを進めていただかないと申込みが済んだことにはなりませんので、ご注意ください。なお、結果通知について、訂正したい箇所がある場合には、入学手続きの際にも訂正は可能と聞いております。必要に応じて、適宜ご対応いただければ幸いです。



# ■大学の一般入試に向けて

1月15日(土)～16日(日)の大学入学共通テスト以降、大学の一般入試が本格化していきます。それに向けて、学習面、生活面について、最低限のことですが、アドバイスしておきたいと思います。少しでも参考にして、悔いの残らない受験にしてください。なお、今年度も昨年度同様、新型コロナウイルス感染拡大の防止対策が取られるケースも多々あることとされます。受験校の入試情報をよく確認し、十分に対策を講じたうえで本番に臨みましょう(※裏面に大学入学共通テストに関する情報をまとめてあります)。



## 〈学習面〉

- 教科・科目にもよるのですが、基本的には、これまで積み上げてきたものを信じて、例えば、英語であれば、単語集・熟語集、文法問題集、構文集などを繰り返し徹底して復習してみましょう。問題集や模試などでミスしたところにマークなどを施しているのであれば、そこを徹底して確認するというのも方法です。また、日本史や倫理・政経などは、直前まで追い込みが効く場合があります。最後まであきらめずにがんばりましょう！！
- 実践的な問題(赤本など)に取り組む場合は、自信を失わないように注意しましょう。もしできなかつた箇所があれば、必ず解答・解説にじっくりと目を通して、よく確認しておきましょう。分からないままにしておくのは、最もまずいことです。

## 〈生活面〉

- どうしても夜遅くまで学習する習慣が身についてしまっている人が多いと思いますが、人間の脳は、起床してから3時間以上たたないとしっかりと働かないとも言われますので、実際の入試に向けて、冬休みのうちから、試験開始の時間から逆算して早起きする習慣をつけておきましょう。
- 暴飲暴食は避け、規則正しい生活をするように心がけましょう。当然、風邪やインフルエンザ、感染性胃腸炎なども要注意ですが、今年度も新型コロナウイルスに感染しないよう、十分に対策をして試験会場に行くようにしましょう。日々の体調管理を怠らず、万全の健康状態で臨みましょう。

## 〈試験当日〉

- 最寄り駅周辺は多くの受験生で混み合うことが考えられますので、早めに会場に到着できるよう、若干、余裕を持って出発するように心がけましょう。例えば、東京都内の大学を受験する場合、同じ駅に複数の大学があるケースもありますし、大学の建物が乱立していて「会場がどこか分からない」と迷ってしまうこともあるかもしれません。多くの生徒がスマートフォンで位置情報を確認しながら会場に向かうものと思われそうですが、受験会場を間違わないよう注意してください。多くの受験生に圧倒されないことも大事です！！

## ■ 2022 年大学入学共通テスト情報

大学通信発行の「UNIV PRESS NEWS」VOL. 7（2021 年 12 月 15 日号）から大学入学共通テストの最新情報をお伝えします（以下に引用）。大学入学共通テストの志願者が確定



したことを受け、さまざまな角度から分析がなされています。3 年生のみなさんで受験する人は表面の記事なども参考にしながら、しっかり準備して臨みましょう。

2022 年 1 月 15 日・16 日に行われる「大学入学共通テスト」の志願者数が、独立行政法人大学入試センターから発表された。

共通テストとして 2 回目の実施となる 2022 年度の志願者数は、53 万 367 人。前年と比べ 4878 人減り、減少率は 0.9%、4 年連続の減少だ。

2022 年 3 月の高等学校卒業見込み者は、前年より約 2 万人（2.0%）少なくなるが、現役生の志願者は 44 万 9369 人で、426 人（0.1%）減とほぼ昨年並みにとどまった。一方で、浪人生の減少が目立つ。共通テスト初年度の 2021 年度は前年比で 2 割近い大幅減となったが、2022 年度も 5.2%の減少だ。また、志願者のうち浪人生が占める比率も 3 年連続で下がり、14.5%と過去最低になった。今後も浪人生は減り、強い現役志向が続くとみられる。

現役志願率（高等学校卒業見込み者のうち、共通テストに出願した者の割合）は 45.1%。前年より 0.8 ポイント上昇し、過去最高となった。地域別では東京が 58.2%と最も高く、広島、愛知、富山、石川の 4 県も 50%を超えた。

現役志願率が上昇したのは、共通テストが 2 年目を迎え、過去間もできて対策を立てやすくなったことによる。さらに、コロナ禍による不況で私立大よりも学費の安い国公立大を志願する生徒が多いことや、私立大を志願する生徒も共通テスト利用入試を視野に入れているためだ。安全志向から、学校推薦型選抜や総合型選抜の人気の高いが、共通テストに出願する 9 月末の時点では、一般入試までを見据えた長期的な受験計画を立てる生徒が多い。私立大の共通テスト利用入試は一般入試よりも受験料が安く、共通テストの成績だけで合否が判定される方式を利用すれば、受験機会が広がる。早稲田大や上智大、青山学院大などでは、共通テストを必須とする一般入試を実施しており、学部や方式によっては共通テストを受験しなければ出願できない。

なお、過去の共通一次試験や大学入試センター試験の例では、2 年目はいずれも難化しており、2022 年度の共通テストも難化する可能性が高い。また、共通テスト利用入試は出願しやすさから高倍率になる傾向がある。

2022 年度入試で共通テストを利用する大学は 708 校（国立 82 校、公立 93 校、私立 533 校）、専門職大学 7 校（公立 2 校、私立 5 校）。公立大では川崎市立看護大、三条市立大、叡啓大、芸術文化観光専門職大が新たに利用する。

## ■ 筆者の友人の話



筆者の友人に、国連の職員として活躍している女性がいます。友人といっても、もう20年以上会っていませんし、1つ年上の方です。その方(以下、Sさんと表記します)とは、「(発展途上国などの)国際問題に関心のある人たちが集う会(仮称)」で知り合いました。筆者が20代半ばの頃です。Sさんは、人当たりがよく気軽に何でも話せて、それでいて芯が強く、やるとなったら何でも徹底して取り組む女性という印象があります。

そのSさんが国連職員としてアフリカで活躍する様子を久しぶりにネットで確認する機会がありました。といっても、今から4年ほど前のインタビュー記事で、たまたま中学生の地理の授業で「世界の食料事情」について考えさせるための教材探しをしていた際に、Sさんの記事が目にとまりました。

Sさんは大学卒業後、外資系の金融機関で勤務していましたが、「毎日、朝から夜まで日付とゼロがいくつも並ぶ数字だけに向き合い、季節感のない日々を過ごすうちにジレンマに陥った」と筆者に話していたことがありますし、自分のプロフィールにも記載されています。そんな中で、有機農業を通じて発展途上国の指導者を育成する養成学校へ行く機会があり、そこでインド人と出会ったことが転機となり、アメリカ留学などを経て現在に至っています。

筆者の目にとまった記事では、Sさんがアフリカのルワンダに在住して、農家の人たちに市場を提供し、大多数の農家が自分たちで食べて生活できるよう持続的な発展を支援することをミッションとする仕事をしていて、そのためのアグリビジネス(農業に関連する幅広い経済活動)のモデルづくりに取り組んでいるとのことで、貧困問題の解決に向けて悪戦苦闘しながら、少しずつ前進している様子がかげえました。

Sさんは今から10年以上前に、第二次世界大戦中のニューギニア戦を生き抜き、以来戦死した仲間へ報いることを使命として、25年間にわたってかつての戦場で旧日本兵の遺骨を掘り続けた方の話について、外国人記者が英語で記した本を日本語に翻訳して出版しました。筆者のもとにも、先の「国際問題に関心のある人たちが集う会」の関係者の方からSさんの翻訳本出版についての連絡がありました。すぐに本屋さんで購入し、ひと通り読ませていただいた後に、Sさんに感想を伝える機会がありました。その後、Sさんとはしばらく連絡を取るようになり、アフリカのスーダンでWFP(世界食糧計画)の活動に関わっていたときの様子などを知らせてくれました。それからすぐのことだったと記憶していますが、Sさんは欧米人男性と結婚してカンボジアで生活するようになり、東日本大震災が発生した際には、筆者の安否を尋ねるメールを送ってくれました。筆者が無事であることを確認してホッとすると同時に、カンボジアの首都・プノンペンでも募金活動を行うなど、日本のことを心配して動いているカンボジアの人たちが大勢いることを伝えてくれました。

その後もSさんとは何らかの連絡を取っていましたが、次第にSさんの方で子育てが大変になってきたこと(※お子さんは2人いるとのこと)、また筆者自身も仕事が忙しかったこともあり、気がつけば、8年くらいまったく連絡を交わさなくなっていました。そんな中で先の記事への遭遇で、久しぶりに心が洗われました。

遠く離れた異国の地で、現地の人たちと何気ない日常を過ごしながら、国際貢献している友人がいることは、筆者にとっても日々の教育活動を実践していくうえで大きな力になります。進学コース2年生の「総合的な学習の時間」の様子などを見ていて、みなさんの中にも、「国際協力」に関心を持っている人が多くいることは筆者も承知しています。それぞれが抱えている「貧困問題」の解決など、少しでも思い描く通りに解消していけば良いと考えますが、決してそう簡単なことではないことも事実です。もし今後、こういった問題の解決のために真剣に関わっていきたくすれば、大きな挫折をしたとしても簡単にあきらめないなど、しっかりとした信念を持って何事にも打ち込める素養があること、さまざまな人たちと分け隔てなくコミュニケーションを取っていけることなどが基本中の基本になるものと思われまふ。そういったことを学校での日々の活動を通して少しずつ身につけてほしいですし、家庭や地域社会でも意識してほしいと思っています。 文責：清水聖(進路指導主事)